

沖縄県水産海洋研究センターニュース(第3号)

2006年(平成18年)8月発行

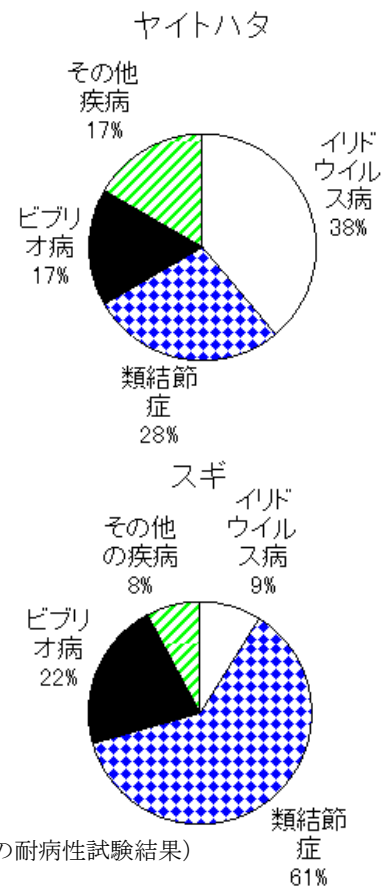
本所 〒901-0305 沖縄県糸満市西崎1丁目3番1号
TEL:098-994-3593 FAX:098-994-8703
石垣支所 〒907-0453 沖縄県石垣市宇川平828番2号
TEL:0980-88-2255 FAX:0980-88-2114
ホームページ: <http://www.pref.okinawa.jp/fish/>

平成18年度沖縄県試験研究評価会議水産部会開催

水産海洋研究センターの試験研究を評価する評価会議水産部会が8月16日に開催されました。沖縄県では、効率的・効果的な試験研究を進めるため、専門分野別に評価部会を毎年開催しています。水産部会では、琉球大学・水産総合研究センター・県漁連・県関係機関の委員が、水産海洋研究センターと海洋深層水研究所で行っている研究課題の評価を行いました。評価の対象は、来年度から実施予定の新規課題(事前評価)、取り組んでから3年目の継続課題(中間評価)、昨年度終了した課題(事後評価)です。

今年度は、計14件が評価対象となりました。うち水産海洋研究センターの研究課題は新規4件、継続1件、終了7件の計12件でした。新規4課題の概要とそれに対する意見は下記のとおりでした。

- ・**ハタ類の新規養殖適種選定試験**: 大型ハタ類のチャイロマルハタ・タマカイの種苗生産技術を開発するとともに他の有望種の情報を収集する試験研究課題です。種の選定にあたっては、市場価値など養殖経営に視点を置くようにとの指摘がありました。
- ・**シラナミの種苗量産技術開発**: シラナミは、シャコガイ類ではヒメジャコに次いで美味といわれる種です。ヒメジャコより成長が早いことから、養殖用として有望種と考えられます。シャコガイ類は、共生している藻類の生産物を利用するので環境に優しい養殖対象種で、また沖縄特有の貝類であることから沖縄ブランドとなる種でもあるので、研究成果を期待するとの意見がありました。
- ・**海洋保護区の設置効果に関する研究調査**: 本島北部の今帰仁・屋我地地先でハマフエフキ(たまん)とシラヒゲウニの保護区の設置効果を調べる研究課題です。ハマフエフキの保護区は平成12年から地先漁協により自主禁漁区として設定されており、シラヒゲウニの保護区は放流ウニを保護する目的で今年度から設定されているものです。長期にわたる効果調査や浅海域の保護区の重要性が指摘されました。
- ・**熱帯性魚類の養殖業振興事業**: 近年魚類養殖では、魚病による被害が増えています。ヤイトハタではイリドウイルス病、スギでは類結節症の被害が多くなっています(右図参照)。しかし、現状ではこれらの魚病の効果的な対策がないので、使用できるワクチンの開発が要望されています。ワクチン開発には、多大な費用と特殊な施設が必要とされますので、現在の水産海洋研究センターの予算と設備では取り扱えない課題です。来年度は沖縄特別振興対策調整費の事業として応募し、認可施設を有した研究機関と共同でワクチンの効果試験やワクチン認可申請を実施する予定です。疾病対策としてのワクチン開発は、緊急かつ重要な課題であるので沖縄特別振興対策調整費事業として認められ、早急に実施するよう望まれました。(企画管理班長 渡辺利明)



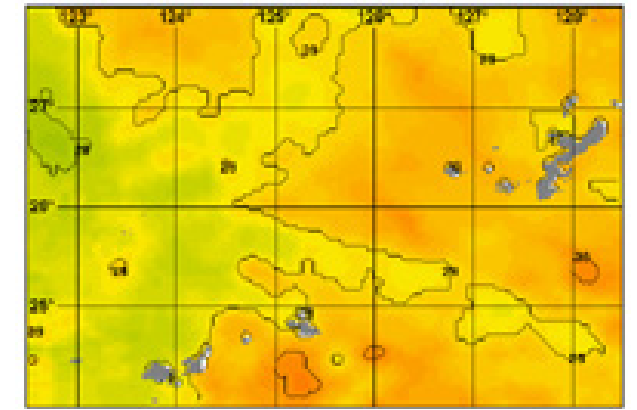
水産海洋研究センターホームページリニューアル

水産海洋研究センター(旧水産試験場)のホームページは全事業報告書を掲載するなど、情報の蓄積を公開して参りました。また、漁業者の方に衛星情報の公開など即時性の高い情報を海況案内人として、提供してきました。

しかし、最近では海況案内人以外に諸処の事情でホームページの更新がされませんでした。今年度に入り、水産試験場から水産海洋研究センターに名称変更をするのに伴い、心機一転し5月より情報の更新を再開しました。今年度は1年かけてホームページを更に充実させていく予定です。



水研センタートップページ更新に伴いトップページをシンプルに変更しました。



海況案内人(水温)
非常にアクセス数が多い、衛星情報

内容としましては、定期的な情報の更新以外にも、魚病等の養殖関係の情報や漁獲状況、研究員によるトピックの紹介など情報の掲載に力を注いでいきたいと思います。また、このほかにも凶南丸に関する情報の拡大や八重山支所の情報も順次掲載していく予定です。

研究の成果や日頃の活動状況をホームページを通じ、皆様に継続的にお知らせすることにより、親しみある研究機関として情報公開を行っていきます。

(海洋資源・養殖班 松尾和彦)